

第3回総合計画策定市民会議 分野別専門委員会まとめ

市民生活分野	
政策	施策
<p>1 東御市版循環型社会の推進 (※政策2と統合でよいのでは)</p>	<p><u>1 ごみの適正処理と減量・資源化の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミ出しの地区外の人の方はあるか (地区役員が処分していると聞いている) ・ 道路へのゴミポイ捨て対策 ・ リサイクル、省エネルギーについての広報の充実 ・ 「資源化」の詳細、イメージが湧く表現も必要
	<p><u>2 エネルギーの持続性確保の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民や企業の脱炭素社会に対する意識 UP
<p>2 豊かな自然に抱かれた住環境づくりの推進</p>	<p><u>1 豊かな自然の継承・理解の推進</u></p>
	<p><u>2 身近な水環境の保全</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「安全できれいな水」 ・ 施策1「豊かな自然の継承・理解の推進」の一部ではないか、統合してもよいのでは？
<p>3 多様性を認め合う地域づくりの推進</p>	<p><u>1 人権尊重・男女共同参画の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 差別禁止条例の制定が必要 ・ 啓発活動の促進（企業内での人権・男女共同参画に関する取組みが弱いのではと感じているため） ・ 多様性に関する理解の増進
	<p><u>2 多文化共生の推進</u></p>
<p>4 協働の地域づくりの推進</p>	<p><u>1 協働の地域づくりの活動の促進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもや高齢者（介助などが必要ない）と一緒に楽しめる居場所づくり ・ 住民の居場所づくりの位置づけと活用と人材育成について良いところを合わせられると良いと考える。 ・ 地域おこし協力隊員がどのように活躍しているのか、任期後はどのように市に関わっているのか見えてこない ・ 地域サポーターの積極的参加 ・ 地域人材育成を進める ・ 地域コーディネーターの存在が必要（地域おこし協力隊と共に） ・ 市民による小・中学校単位のクラブ活動の支援 ・ 社会教育を地域で行っていく（指導者など）

	<p><u>2 協働の地域づくりの担い手の確保・育成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域役員の担い手がいなく探すのに苦勞する ・移住者に対し移住した理由が分かると取組につながる ・人材登録マッチング制度 ・世話焼き人材の掘り起こし ・担い手不足のため、市民がボランティア等へ積極的に参加できる仕組みづくり
<p>5 暮らしの安全の確保 (※基本目標5に紐づけるのはいかがか)</p>	<p><u>1 地域防犯活動の推進</u></p>
	<p><u>2 安心な消費生活への支援</u></p>
	<p><u>3 交通安全活動の推進</u></p>

第3回総合計画策定市民会議 分野別専門委員会まとめ

子育て・健康福祉・医療	
政策	施策
1 子どもを産み育て、充実した時間を過ごせる環境づくり	<u>1 妊娠・出産・子育てのきめ細かい支援の充実</u> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の公民館を利用して「子育てひろば」、「子ども食堂」、「小学生の居場所」づくり ・通学（登校時）の徒歩の推奨、啓蒙 ・個性と多様性を尊重する学校教育
	<u>2 より豊かな幼児教育・保育の実践</u> <ul style="list-style-type: none"> ・個性を大切にした多様な学び ・信州自然保育が小・中学校へもつながる取組を ・子どもが主体の保育の充実 ・園小接続 or 幼保小連携 ・給食の地産地消には農業者と給食をつなぐコーディネーターが必要 ・卒園式や入学式などの儀式的なものを見直す
	<u>3 子育てを支える地域づくりの推進</u> <ul style="list-style-type: none"> ・見守り支援事業 ・ライフワークバランスの推進（父親の育児休業など） ・働き方改革の推進 ・男性が育児に参加できるよう企業の提案が必要
2 子どもから高齢者までが健康で安心して暮らせる環境づくり	<u>1 生涯を通じた健康増進の推進</u> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が歩きやすく、また自転車で走りやすい道路づくり ・しなの鉄道沿いにサイクリングロードの整備 ・一病息災の意識づけ ・「健康な従業員＝企業の健康経営」の啓発
	<u>2 地域医療体制の充実</u> <ul style="list-style-type: none"> ・市民病院だけでなく地域の医療機関との協力 ・身体の不調や心配事などがあったら市HPやかかりつけ医に早く相談するよう促す広報が必要ではないか。 ・市内病院の意向調査や中長期的な地域医療の見直しの作成が必要 ・市民病院を中心とした疾患・予防・健康・啓蒙活動・介護・福祉の充実 ・市民病院の中長期的な見通しの調査

<p>3 困難を抱える人の把握と支え合いや支援の推進</p>	<p><u>1 支え合う地域福祉づくりの推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健診・ワクチンによる疾患予防 ・ 介護福祉の充実 ・ 義務教育以降の居場所づくりが必要 ・ いざというときに支え合える地域での見守り体制づくり ・ 公民館での健康・運動の啓蒙活動 ・ 温泉施設を利用した健康増進活動 ・ ボランティアマッチングサービスの導入 ・ 企業のボランティアへの協賛 ・ 需要と供給の簡易システムづくり（今ある制度を活かして即実現が可能なものから） ・ 地域で見守り、声掛け、買い物支援が出来る地域協働ビジネスの創設支援
	<p><u>2 障がい者（児）福祉の充実</u></p>
	<p><u>3 ひとり親・生活保護・生活困窮世帯の自立支援と生活の安定</u></p>
<p>4 高齢になっても元気で生きがいを持って暮らせる環境づくり</p>	<p><u>1 高齢者が活用するまちづくりの推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩いて通える憩いの場づくり ・ タクシー券の充実 ・ デマンド交通の利便性向上 ・ 「高齢者が活躍するまちづくり」ではなく「高齢者が活躍する場づくり」の表現の方が良い ・ シルバー人材の活用（例：病院へ行く際の運転（有償ボランティア）で生きがいが出る
	<p><u>2 介護予防（フレイル対策）の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護予防などやっていることを浸透させる手だて
	<p><u>3 地域包括ケアシステムの深化</u></p>

第3回総合計画策定市民会議 分野別専門委員会まとめ

教育・文化・スポーツ	
政策	施策
1 夢を持ちたくましく 生きる子が育つ環境づく り	<u>1 確かな学力、豊かな心、健やかな身体を育む教育の推進</u> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生（高学年）から中学生のリーダー養成 ・小中学校職員と地域や行政をつなぐアドバイザー兼実務担当者が必要 ・学校での集団生活の中でお互いを思いやる気持ちが育つ教育を ・幼保小の連携 ・中学生を地域行事のサポーターやジュニアスポーツのアシスタントとする（地域コミュニティ意識の育成の一環） ・部活動の地域移行のための仕組みづくりや支援 ・子ども向けSDGsの推進のため、JAや企業から自然の保護や農業、企業精神などの東御市の良さを未来に伝えて行きたい ・夢を持つ子どもが増えるよう、まずは家庭で夢を語り合ってもらいたい
	<u>2 安全・安心な子どもの居場所づくり</u> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の子どもたちへのあいさつや声掛け
	<u>3 誰一人取り残されない教育環境の構築</u> <ul style="list-style-type: none"> ・成人するまで見守り、支援できる社会 ・障がいの多様化により一人ひとりの良さを引き出せる教育、そのためにも教育現場への人員補充 ・多様性の理解は子どもだけに進めるのではなく、親も理解しなければいけない（LGBTQ、発達障がい、肢体不自由など） ・不登校対策として学校での学びに抵抗のある子どもたちに向けた多様な学びの場づくり
2 社会教育を通じた地 域の活力づくりの推進	<u>1 人づくり、地域づくりにつながる生涯学習の推進</u> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが地域行事などを早い段階で知ることが出来る事業 ・公民館事業へ子どもたちの参加を進める（世代間交流を深める） ・キャリア教育として地元企業とタイアップする ・人材（教育支援）の募集やコーディネートを行う、東御市全体をまとめる団体があったらよいと考える

	<p><u>2 芸術文化活動の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸山晚霞記念館や梅野記念絵画館で意義のある企画と発信が出来たら良いと考える ・東京芸術大学や武蔵野美術大学との連携 ・地域の芸術文化とアートイベントを掛け合わせるため、市民と大学と市で実施していく
	<p><u>3 「する、みる、ささえる」スポーツ活動の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のタイミングで気軽に身体を動かすことの出来る場づくり ・総合型スポーツはコミュニケーションが取りやすく、コミュニティが広がると考えるため推進していったらよいと考える ・中央公園の活用としてランニングコースの充実させることでスポーツ愛好者が集うランニングステーションになり得ると考える。また、フットサルコートなどを新設することでスポーツ活動の推進につながるのではないかと考える。 ・北御牧プールの跡地を利用して誰もが気軽に使える場所とするのはどうか
<p>3 郷土の歴史・文化を守り・活用する</p>	<p><u>1 文化財の保存と活用</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今ある文化財の保存だけでなく、忘れられている文化財があり、その価値を明瞭にする取組みが必要ではないか <p><u>2 地域の文化や伝統行事の継承</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点でも多くの民俗的な風習が失われている。その風習を調べ、残し次世代に伝えていきたいと考える

第3回総合計画策定市民会議 分野別専門委員会まとめ

産業・経済	
政策	施策
1 地域の魅力を高める 農業の振興	<u>1 地産地消を組み合わせた東御ブランドや特産品の振興</u> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消を進めるのであれば売る場所が必要 ・地消に関する事業があるとよい ・地産地消は必要か ・朝鮮人参やばれいしょなどのブランド復活 ・東御のブランド米〈風さやか〉の団地化 ・ブランドづくりは土づくりから ・御堂のワイン用ぶどう団地の非農地箇所に向かいの場や試飲の場を
	<u>2 農業の担い手の育成・支援と安定的な農業経営の確立</u> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者からアンケートを取り、農業経営の将来像をつかむ ・農業技術の向上（農業技術連絡協議会の強化） ・機械化、スマート農業に関する支援策 ・機械導入の積極的研究 ・機械協同利活用 ・自動機械化推進事業（GPS、AI など） ・農地受託者（農業企業者）の合同相談会、水田維持に何が問題となっているか ・専業農家の負担軽減のため地域住民で協力し合う
	<u>3 農地流動化の促進および農地・里山・森林の保全</u> <ul style="list-style-type: none"> ・整備すべき里山の指定 ・個人所有林の維持管理の徹底 ・共有林の管理取組の推進 ・森林環境を楽しむことで森林を守る取組となる
2 暮らしを豊かにする 商工業の振興	<u>1 新規起業家への支援と企業立地の促進</u> <ul style="list-style-type: none"> ・湯の丸テレワーク施設を滞在型の観光業と紐づける（近くの宿泊施設との連携） ・市内2箇所テレワーク施設利用増加に向けた周知、広報の徹底 ・地域自らが活性化を考える ・生活する場の環境（河川、水田）を守る気概を。

	<p><u>2 中心市街地のにぎわい創出</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業承継への支援強化 ・ 企業や事業者による脱炭素対策の推進
	<p><u>3 商工業の支援と育成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内企業連携事業の研究 ・ 商工業におけるDX推進事業で事務や業務の効率化を目指す ・ 市内空き店舗を新規企業者へ紹介出来るシステムづくり ・ 限られた土地（工業地域）の活用 ・ 農商工業の振興には土地利用の考え方が必要
<p>3 まちの魅力を再発見する観光の振興</p>	<p><u>1 市民によるまちの魅力を再発見の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者育成や支援 ・ e-バイクの活用を進める中で、様々な年代の市民で市内を周遊してもらい、幅広いコース設定を提案する ・ 民間企業と観光地の連携強化 ・ ボランティアガイドへの参加
	<p><u>2 地域資源を活用した体験型、滞在型観光の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ QRコードによる観光案内の充実

第3回総合計画策定市民会議 分野別専門委員会まとめ

都市インフラ・防災	
政策	施策
1 都市インフラの維持・充実	<u>1 安全・快適な道路環境の整備</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場の整備 ・ 道路環境の整備（木が歩道などにはみ出ている）
	<u>2 公共交通の利便性向上</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今ある公共交通の維持（利用しないとなくなってしまう） ・ 市民が公共交通を積極的に利用する ・ デマンドバスの利便性向上 ・ デマンドバス等の交通手段の活用として近隣市町村と連携を図り、相互乗入が出来るようにしたい ・ デマンド交通A Iシステムの導入に向けて、前段階として高齢者向けのスマホ教室が必要 ・ 公共交通事業について、商店街と運行事業者とのタイアップを進めるのはどうか
	<u>3 上下水道の維持・管理</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住居地域の公共下水道化 ・ 災害時等の緊急時を想定した新たな水源の確保を進めてもらいたい
	<u>4 ゆとりある住環境づくりの推進</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空家のリノベーションから転入者の支援につなげられないか ・ 空家の改修や除却費用の助成などを地域活性化事業として行えないか ・ 空家を活用して創業する事業者への補助金事業の創出 ・ 空き家バンクの情報を企業者や創業者、会員などへつなぎ有効活用が出来ないか ・ 都市計画のみえる化 ・ 市民で相続について話し合える風土づくりが出来ないか ・ 地域の見守り隊（市民個人によるゴミ拾いなど）

2 災害に強い地域づくりの推進	<u>1 防災意識の高揚と防災体制の充実</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民参加型の防災教室の開催 ・ 防災ラジオの活用および啓発 ・ 市防災訓練の充実 ・ 大雨でも水害が起きないようにしたい、用排水路や道路側溝を地域で適正管理していく ・ ハザードマップで自分の住んでいる地域の災害リスクを知る ・ 防災バック、飲料水の配布や購入に対する補助金の導入 ・ 商工会による企業のBCP策定支援 ・ 市民防災教室の広報や周知を商工会員にも共有する ・ 学校教育で防災知識の学習を行う
	<u>2 地域消防体制の充実</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消防団員の確保策として子育て支援と合わせた取組が出来ないか ・ 消防団員の確保には親世代（50～60代）の意識改革が必要ではないか ・ 地域を自分の手で守る意識の醸成（地域コミュニティー） ・ 消防団員になることのメリットを伝えたい ・ 消防団員報酬の改定が必要なのではないか ・ 消防体制に女性も参加していくのはどうか ・ 地域で消防団員のなり手をつくっていく
	<u>3 災害に強い都市インフラづくりの推進</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時の水利となる消火栓や防火水槽の確保や整備が必要であると考える ・ 上下水道の管理（特に上水道）

第3回総合計画策定市民会議 分野別専門委員会まとめ

行財政運営	
政策	施策
1 シティプロモーションの推進	<u>1 地域ブランドの構築・発信</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民同士による友好関係づくり（例：特産品の交換、販売、学生の交流、企業間の視察など）で無いものを互いに補う また、行政がバックアップする仕組みがあれば良いと考える ・ エリア連携、他地域との連携 ・ 地域ブランドを支える企業と行政の連携 ・ 企業が東御市でのライフスタイルをアピールする ・ Z世代が市の良いところをSNSで発信する ・ SNSを活用して天気などの市の日常や市民割などのお得情報の発信 ・ 市の良いところを再発見したら周りに伝える
	<u>2 シビックプライドの醸成</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市の代表する愛せるものを何か示せたらよいのでは ・ 地域の魅力の再認識（市外で居住したことの無い市民に向けて） ・ 環境や自然と市の特産品等を組み合わせる ・ 市民がSNSで市の魅力を発信および強化していく ・ 市の良い部分をかけ合わせていく（ブランド化）
2 移住・定住の促進	<u>1 U・I・Jターンと定住の促進</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空家の改修、改善、発掘 ・ 補助金など金銭面でのサポートが必要では ・ 移住後の働く場所の紹介および補助 ・ リモートワークを推進している企業の誘致 ・ 移住定住の前段階として「2拠点生活のススメ」などを示すのはどうか ・ まちぐるみで移住を歓迎する取組
3 DXによる行政サービスの利便性向上	<u>1 DXの推進</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「来させない窓口」の表現の仕方を考えたい、きつい言い方に感じる、「お家で窓口」などやわらかい表現を ・ 地域ごとの連絡等の効率化 ・ DXの推進については民間企業との連携が必要ではないか ・ 東御市温泉アプリ（キャッシュレスレジから慣れるなど） ・ デジタルが苦手と感じる人に対して、分かる市民が先生となり教える（誰でも先生など）

	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルへの理解と挑戦（常に対極にいる人、デジタルに絶対に頼らないと決めている人に対して）
<p>4 市民の信頼に応える 行財政経営の推進</p>	<p><u>1 効果的で持続可能な行財政運営の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民には分かりにくい項目であると感じる ・A I 技術を活用した事務事業の効率化、業務の自動化 ・財源確保の研究 ・ふるさと納税について収集欲を刺激するようなメニューが考えられないか ・職員の柔軟な働き方の推進（リモートワーク・フリーアドレス）
	<p><u>2 広聴活動の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・広聴活動に「広報」を入れてはどうか ・意見の書きやすさ、意見の言いやすさ、分かりやすさの推進 ・若い世代の意見や参加を促す仕組みづくり ・地域の若い世代に向けた懇談会
	<p><u>3 広域連携による共同事業の促進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東信地区にある教育期間の連携の推進 ・子どもたちが将来のイメージ（大学や就職後）を出来るような取組を広域で対応していく ・民間企業からの公開授業を募集